

- 1 線の言葉は、次の文の中で、どの意味を表していますか。一つに○をつけましょう。

かかりごとにお楽しみ会の計画をねった。

ねる

( ) 手でよくこね合わせる。

(○) 考えてよりよいものにする。

( ) のぼしたりかためたりする。

( ) 体やわざなどをきたえる。

- 2 次の文では、どちらの漢字を使いますか。使うほうの漢字を  に書きましょう。

① 合・会

一時に駆で姉と

会

うことにした。

新しいくつは、足にぴったり

合

った。

ようふくを

着

る。

③ 始・初

生まれて

初

めて、体験する。

えいがが

始

まった。

- 3 国語辞典で先に出てくる言葉からじゅんに1〜4の番号をつけましょう。

① (2) すいどう

② なかま (1)

(1) すいえい

なっとう (2)

(3) すいみん

ななめ (3)

(4) すいめん

なまえ (4)

③ (4) グラス

④ きやく (2)

(2) くらし

ギヤグ (4)

(3) クラス

ぎやく (3)

(1) くらい

きく (1)

- 4 線の言葉は、国語辞典には出ていませんでした。どういう言葉で引く  
とよいですか。( ) に書きましょう。

① 山の空気は、すがすがしかった。

(すがすがしい)

② こむぎこをこねてパンを作る。

(こねる)

③ 草原で、さわやかな朝をむかえた。

(さわやか)

④ 先生にほめられて、てれくさかった。

(てれくさい)

## 漢字の音と訓

教科書  
上27頁  
ヘーシ  
29○めあて  
漢字には、音読みと訓読みがあることが分  
かり、文の中で正しく読んだり書いたりす  
る。

1 次の漢字の音読みと訓読みで、それぞれ漢字二字の言葉を作りましょう。

〔例〕○歌……カ (校歌) うた (歌声)

|         |     |    |     |
|---------|-----|----|-----|
| ① 月……ガツ | 正 月 | つき | 月 見 |
| ② 親……シン | 親 友 | おや | 親 子 |
| ③ 紙……シ  | 半 紙 | かみ | 手 紙 |
|         | など  | など | など  |

2 読み方に気をつけて、次の——線の漢字の読みがなを( )に書き  
ましょう。音読みは、かたかなで、訓読みは、ひらがなで書きましょう。

|     |                |         |
|-----|----------------|---------|
| ① 新 | ア 毎朝、新聞を読む。    | (シン)    |
|     | イ 新しいブラウスを着る。  | (あたらしい) |
| ② 書 | ア 図書かんで本を読む。   | (シヨ)    |
|     | イ ていねいに字を書く。   | (か)     |
| ③ 後 | ア 後ろからおいかける。   | (うし)    |
|     | イ 午後から天気がよくなる。 | (ゴ)     |
|     | ウ 後で、あそぼう。     | (あと)    |

3 次の——線の漢字の読みがなを( )に書きましょう。音読みは、  
かたかなで、訓読みは、ひらがなで書きましょう。

|               |              |
|---------------|--------------|
| ① ア 金魚 (ギヨ)   | ② ア 足音 (おと)  |
| イ 魚市場 (うお)    | イ 音楽 (オン)    |
| ウ 魚つり (さかなつり) | ウ 音色 (ネ)     |
| ③ ア 大小 (シヨウ)  | ④ ア 馬小屋 (うま) |
| イ 小鳥 (コ)      | イ 馬車 (バ)     |
| ウ 小さい (ちいさい)  |              |

4 ——線の漢字は、音と訓のどちらがつかわれているでしょうか。

〔例〕○太陽の光がまぶしい。 (訓)

- ① 点と点を 直線でむすぶ。 (音)
- ② リボンは二メートルの長さがある。 (訓)
- ③ 農家のおじさんに話をきく。 (訓)
- ④ きれいな貝をひろった。 (訓)
- ⑤ 白い線をひく。 (音)

- 1 線のことばをまちがえないようにつたえるには、どのようにせつめいしたり、言いかえたりしたらよいですか。〔 〕に書きましょう。

〔例〕「わたしのなまえは、大野です。」

〔大きい野原のおおのです。〕

小野さん？



- ① 「七番目のバスでいでおりのよ。」

〔七番目のバスでいです。〕

一番目？



- ② 「お母さん、美容院へ行ってくるからね。」

〔かみの毛を切ってくれる美容院へ行ってくるよ。〕

病院？



- 2 前後の言葉や文のないようから 正しいことばに○をつけましょう。

- ① ロッカーの上に { イ ( ) ( ) } { ア ( ) ( ) } { 物 } をおく。

- ② 東京の { イ ( ) ( ) } { ア ( ) ( ) } { 人口 } がふえる。

- ③ { イ ( ) ( ) } { ア ( ) ( ) } { 記者 } { 汽車 } で山へ、行く。

- 3 先生が言った次のようなことばの意味がよくわかりませんでした。どのようにしたらよいでしょうか。

〔先生のことば〕

体いく館のかべのぜんめんに、  
みんなの絵をはりましょう。



- ① 聞く人は、どうすればいいでしょう。( )に○をつけましょう。

ア ( ) ( ) 先生にまかせる。

イ ( ) ( ) 「ぜんめん」の意味をたずねる。

ウ ( ) ( ) ほかの人の様子を見ている。

全面？  
前面？



- ② 低学年の人に「全面」という意味を正しくつたえるために、あなたはどのように説明しますか。

「体いく館のかべの面全体に」  
とくわしくせつめいする。

1 次の漢字の左がわには、同じ部分（へん）が入ります。どんな部分が入るかを考えて、書きましょう。

〔例〕

目

反

（木）

①

会

氏

（糸）

③

売

寺

（言）

②

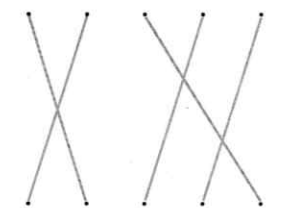
系

士

（イ）

2 上と下で、同じ部分（へんやつくり）のある漢字を線でつなぎましょう。

数 村 話 池 作



オ エ ウ イ ア  
林 放 泳 休 語

3 つぎの部分をもつ漢字を下の□からさがして、書きましょう。

① 「シ」さんずい

波

湖

海

池

② 「木」きへん

柱

校

林

海・林・池

波・柱・校・湖

4 漢字の部分の名前を見て形を□に書きましょう。また、その部分をもつ漢字を（ ）に書きましょう。

① （つちへん）

土

……土にかんけいがあります。

（地 場）

（など）

② （にんべん）

人

……人のすることや様子にかんけいがあります。

（休 体 作）

（など）

① （おおがい）

頁

……頭や首にかんけいがあります。

（顔 頭 題）

（など）

1 つぎの文で□の言葉を修飾している言葉に――を引きましょう。

〔例〕男の子がにこにこわらっている。

① 魚が気もちよそうにおよいでいる。

② この橋は、とてもきれいだ。

③ ありが、たくさんあつまってきた。

④ とおくから、あまいにおいがしてきた。

2 様子をくわしく表す言葉を入れた文を作りましょう。

〔例〕くじらが 気持ちよそうに およいでいる。

① おじさんが いそがしそうに はたらいている。

② 子どもたちが銀色の魚を じっと、うっとりと 見ている。

③ 赤ちゃんが 大きな声で 泣いている。

3 後の〔 〕の中から言葉をえらんで、□に入れましょう。

〔例〕赤い 花がさく。

① 大きい 荷物を運ぶ。

② おばさんから うれしい 知らせがとどいた。

③ 新しい 洋服を着る。

〔うれしい やさしい 新しい 大きい 強い〕

4 つぎの文の□には、どんな言葉が入りますか。――線の言葉から考えましょう。

① 小さな 石が、さかをころころところがってきた。

② 大きな 石が、さかをころころところがってきた。

1 どちらの漢字を使うと意味が合いますか。( )に○をつけましょう。

① {ア ( ) 丸い} 皿。  
イ (○) ( ) 円い }

② 本を友達に {ア ( ) 帰} す。  
イ ( ) (○) ( ) 返 }

③ 子供の {ア ( ) 葉} はきれいだ。  
イ ( ) (○) ( ) 歯 }

④ かいだんで {ア 三 ( ) 回} へのぼる。  
イ 三 ( ) (○) ( ) 階 }

⑤ 高い山に {ア ( ) 登} る。  
イ ( ) ( ) (○) ( ) 上 }

⑥ 友達に {ア ( ) 親切} にする。  
イ ( ) ( ) (○) ( ) 新雪 }

⑦ 音楽会でリズムを {ア ( ) 合} わせる。  
イ ( ) ( ) (○) ( ) 会 }

⑧ 夜が {ア ( ) 開} ける。  
イ ( ) ( ) (○) ( ) 明 }

2 次の文の( )に同じ読みで意味のちがうじゆく語を書きましよう。

① 「カジ」

ア 母は、毎日カジにおわれている。(家事)

イ きんじよの家がカジにあった。(火事)

② 「カイテン」

ア 町にスーパーマーケットがカイテンした。(開店)

イ こまがくるくるとカイテンした。(回転)

3 あてはまる漢字を書きましよう。

花 科

① かだんにユリかの花を植える。

会 回

② 野球の大きいで、二かい勝った。

柱 注

③ 電ちゅうにちゅう意して歩こう。



## 1 つぎの言葉を使って、文を作りましょう。

〔例〕

うれしい

たんじょう日プレゼントをもらって、うれしくなりました。

たのしい

買ったもらったふくろには、たのしい絵がかいてあります。

あわてる

犬においかけられ、あわてて走りました。

急ぐ

バスの出発に間に合うように急いで家を出ました。

ゆっくりする

休日は家でゆっくりとすごします。

落ち着く

ひなんするときは落ち着いて行動します。

②

など

など

③

かなしい

かなしいお話を読んでなみだができました。

さびしい

友だちが転校してしまい、教室がさびしくなりました。

つかむ

ドアのとつてをつかんでまわします。

つかみ合う

弟とつかみ合ってけんかをしました。

にぎる

お母さんがおにぎりをにぎっています。

にぎりしめる

友だちの手をにぎりしめて「さようなら」と言いました。

など

など

など

など

など

など

⑤

④

## 反対の意味の言葉

教科書  
下60  
ページ  
67めあて  
反対の意味の言葉を正しく使う。

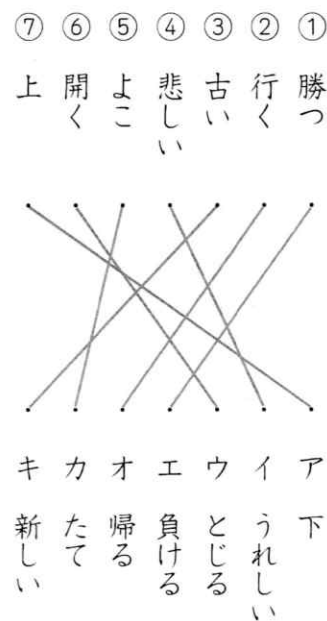
1 「ぬぐ」の反対の意味を表す言葉を□に書きましょう。

① ジャンパーを 着る。③ ぼうしを かぶる。② くつしたを はく。④ ズボンを はく。

2 つぎの言葉と反対の意味の言葉を書きましょう。

〔例〕 暗い  明るい① 広い  せまい② 太い  細い③ 入る  出る④ さむい  あつい

3 反対の意味の言葉どうしを——線でつなぎましょう。

4 反対の意味の言葉を からえらんで書きましょう。

① ア (前) に進む。

イ (後ろ) に下がる。

② ア (高い) 山には、雪がのこっている。

イ (ひくい) 山なので、一年生でも登れる。

③ ア 学校へ (行く)。

イ 学校から (帰る)。

高い 前 帰る ひくい 後ろ 行く あつい

## こそあど言葉

教科書  
下82  
ページ○  
めあて  
さししめす言葉のはたらきが分かり、正しく使う。

1

□にあてはまる「こそあど言葉」を書きましょう。

①

田中さんは、いったい

②

どこ

へ行ったの。

あんな

ところにねこがいるよ。

あっち

の方へ行ったよ。

どこ

にいるの。

③

道を歩いていると

「駅をさがしているのですが、

どこ

ですか。」

と聞かれました。わたしは、前の方をさして、

この

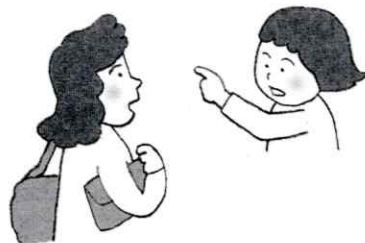
道のつきあたりです。」

と教えてあげました。

「この

人は、きっと旅行りょこうに行くんだな。」

と、わたしは、思いました。



2

次の「こそあど言葉」は、どんな場合やときに使われますか。( )に当てはまる記号を書きましょう。また、□にあてはまる「こそあど言葉」を書きましょう。

| とき    | 場合  | ① (エ) | ② (ウ) | ③ (イ) | ④ (ア) |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|
| ⑤ (キ) | この  | これ    | それ    | あれ    | どの    |
| ⑥ (オ) | ここ  | そこ    | あそこ   | どこ    |       |
| ⑦ (カ) | こちら | そちら   | あちら   | どちら   |       |
| ⑧ (ク) | こんな | そんな   | あんな   | どんな   |       |

## 〈場合〉

- ア 指ししめすものがはっきりしない場合  
 イ 話し手からも相手からも遠い場合  
 ウ 相手に近い場合  
 エ 話し手に近い場合

## 〈とき〉

- オ 場所を指すとき  
 カ 方向を指すとき  
 キ 物やことがらを指すとき  
 ク 様子やほうこうなどを指すとき

1 線の部分の読みがなを書きましよう。

- ① 来年、友だち やって来る。 (らい) (く)
- ② いすが回転、目が回る。 (かい) (まわ)
- ③ おかを登って、登校中。 (のぼ) (とう)
- ④ 口笛をふくと遠くで汽笛鳴り。 (ぶえ) (てき)
- ⑤ 石の山から化石を発見。 (いし) (せき)
- ⑥ まんがの作者は人気者。 (しゃ) (もの)

2

線の部分の読みがなを書き、それが 漢字の音か、訓かを書きましよう。

〔例〕  
やさしい 言葉で 助言する。  
(こと) 《訓》

- ① 高校生の 高とびだ。 (たか) 《訓》 (よう) 《音》
- ② みんなで写す記ねん写真 (うつ) 《訓》
- ③ 羊毛がふわふわしている羊さん。 (しゆく) 《音》
- ④ 宿で宿題はかどらず。

3 つぎの漢字の音と訓を使って、文を作りましよう。

① 食

朝食にパンを食べました。

② 教

算数の時間におはじきの数を数えました。